

2025 年 9 月 16 日（火）
愛知県公立大学法人 愛知県立大学
担当 学術情報部 研究支援・地域連携課
尾澤・稲生
電話 0561-76-8843
E-mail kenkyu@bur.aichi-pu.ac.jp

愛知県立大学 2025 年度グローバル学術交流事業 環大西洋の歴史から読み解くグローバル現代文化 ーブラック・カルチャーからいま何を学ぶのかー

開催のお知らせ

愛知県立大学では、グローバル人材育成を目指し、グローバル学術交流事業を実施しております。その取組のひとつで、教養教育科目講義の一環として国内外から著名な研究者等をお招きし、学外にも開かれた講演会を開催しています。今年度は以下のとおり開催いたしますので、是非、貴社にてお取り上げいただきますとともに、ご取材いただきますようお願い申し上げます。

【概要】 アフリカから新大陸に強制連行された人々は約1250万人とされ、四世紀にわたる奴隷制度の下で過酷な苦難を経験しました。しかしその中で豊かな文化や思想も数多く生まれました。本事業では、ブラック・カルチャー、とくに英語圏、フランス語圏、ブラジル・ポルトガル語圏の文学に焦点をあて、逆境から生まれる力を見つめ直します。環大西洋の歴史や文学の想像力に学ぶことは、今も続く不平等に向き合い、公正な世界を考える手がかりとなるはずです。

＜第1回＞ 2025 年 10 月 18 日（土）13:00～15:30

タイトル：「中間航路の“こちら側”の物語ーアフリカ文学が描く環大西洋奴隷貿易」

講師：栗飯原文子氏（法政大学国際文化学部・教授、アフリカ文学研究者）

＜第2回＞ 2025 年 11 月 16 日（日）13:00～15:30

タイトル：「ナラティヴと時代：ブラジル文学における奴隷制と植民地主義の表象」

A narrativa e o período: representações da escravidão e da colonialidade na literatura brasileira

講師：イタマール・ヴィエイラ・ジュニオール（Itamar Vieira Junior）氏

（アフロ・ブラジル人作家、2020 年・2024 年ジャプチ賞受賞、

2024 年国際ブッカー賞最終候補）※講演言語：ポルトガル語（日本語同時通訳あり）

＜第3回＞ 2025 年 12 月 3 日（水）14:00～16:30

タイトル：「カリブ海文学を日本で読むこと」

講師：小野正嗣氏（早稲田大学文化構想学部・教授、芥川賞作家）※オンライン登壇

- 【会場】 愛知県立大学長久手キャンパス
学術文化交流センター（K 棟）（対面会場・定員 120 名）/オンライン（定員 500 名）
- 【交通アクセス】 東部丘陵線（リニモ）「愛・地球博記念公園」駅下車徒歩 5 分
- 【参加申込】 愛知県立大学地域連携センターWeb申込みシステム
(<https://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei/koza/0015086.html>)
- 【参加費】 無料
- 【主催】 愛知県立大学 学術研究情報センター
- 【後援】 在名古屋ブラジル総領事館

※感染症の感染拡大や自然災害等により、イベント実施方法や内容等に変更が生じる場合は、本学地域連携センターウェブサイトにてお知らせいたします。



愛知県立大学
Aichi Prefectural University

2025年度グローバル学術交流事業

参加費
無料

環大西洋の歴史から読み解くグローバル現代文化 —ブラック・カルチャーからいま何を学ぶのか—

アフリカから新大陸に強制連行された人々は約1250万人とされ、四世紀にわたる奴隷制度の下で過酷な苦難を経験しました。

しかしその中で豊かな文化や思想も数多く生まれました。

本事業では、ブラック・カルチャー、とくに英語圏、フランス語圏、

スラジル・ポルトガル語圏の文学に焦点をあて、逆境から生まれる力を見つめ直します。

環大西洋の歴史や文学の想像力に学ぶことは、今も続く不平等に向き合い、公正な世界を考える手がかりとなるはずです。



第1回

中間航路の“こちら側”の物語 —アフリカ文学が描く環大西洋奴隷貿易

2025 **10.18** 土
13:00~15:30

講師 **栗飯原 文子** 氏 (法政大学国際文化学部・教授、アフリカ文学研究者)

司会 **梶原 克教** (愛知県立大学外国語学部・教授)



現代アフリカ文学では常に歴史の再考と再現が課題であり続けてきましたが、環大西洋奴隷貿易に関しては、直接テーマとして扱われることがほとんどありませんでした。しかし近年、この痛ましい過去をアフリカ大陸の経験として見つめ直そうとする作品が生まれています。本講演では、2010年代に書かれた女性作家による小説に注目し、その歴史的記憶がどのように描かれているかを考察します。

第2回

ナラティヴと時代：スラジル文学における奴隷制と植民地主義の表象

A narrativa e o período: representações da escravidão e da colonialidade na literatura brasileira

2025 **11.16** 日
13:00~15:30

講師 **イタマール・ヴィエイラ・ジュニオール** 氏

(Itamar Vieira Junior アフロ・ブラジル人作家、2020年・2024年ジャブチ賞受賞、2024年国際ブッカー賞最終候補)

司会 **スエナガ エウニセ** (愛知県立大学教養教育センター・准教授)

メロ ワジソン (愛知県立大学教養教育センター・講師)



本講演では、19世紀後半から21世紀初頭のスラジル文学における植民地主義や奴隷制の描かれ方を通じて、その「時代精神」を考察します。かつてこれらのテーマは、しばしばロマンチックまたは悲観的に描かれてきましたが、近年の作品は新たな批判性を備えつつ、歴史的に声を奪われた人々が声を取り戻し、自らの歴史やアイデンティティを回復していく、希望を感じさせるものとなっています。※講演言語：ポルトガル語(日本語同時通訳あり)

第3回

カリブ海文学を日本で読むこと

2025 **12.3** 水
14:00~16:30

講師 **小野 正嗣** 氏 (早稲田大学文化構想学部・教授、芥川賞作家) ※オンライン登壇

司会 **原 潮巳** (愛知県立大学外国語学部・准教授)



フランス語圏カリブ海地域の小説においては奴隷制や人種差別はどのように描かれてきたのでしょうか。奴隷制の負の歴史から生じたこの社会のアイデンティティのあり方を肯定的に捉え直そうとする作家たちの試みに着目し、同時に、こうした文学作品を現代日本社会で読むことによるような意義や喜びが見出せるのかを考えます。

対面(120名)・オンライン(500名)

会場: **愛知県立大学長久手キャンパス**
学術文化交流センター(K棟)

[東部丘陵線(リニモ)「愛・地球博記念公園」駅下車徒歩5分]

愛知県立大学WEBサイトより
お申込みください。

※右のQRコードからアクセス可

<https://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei/koza/0015086.html>



主催 愛知県立大学 学術研究情報センター

後援 在名古屋ブラジル総領事館

お問合せ 研究支援・地域連携課 メール: kenkyu@bur.aichi-pu.ac.jp

